

9月定例会議会特集3

9月12日に開会した根室市議会9月定例会は、10月2日に最終日を迎えました。今週の市議団ニュースでは、鈴木一彦議員の決算審査特別委員会での質疑の主な内容などをお知らせします。

鈴木議員は、令和4年度事業会計・特別会計決算審査特別委員会の委員として、各会計の質疑を行いました。

港湾整備事業会計

同会計は、重要港湾根室港・根室港区と花咲港区の整備を行う会計で、水道、下水道、病院と同様に公営企業会計となっております。基本的には独立採算を求められています。

同会計の主な収入源は漁獲物陸揚使用料と土地使用料であり、そのうち漁獲物陸揚使用量が、令和4年度では収益全体の51.6%を占めました。市場取扱の魚種別取扱高をみると、かつてはさけ・ますが主流でしたが、平成10年にさんまが逆転し現在に至っています。しかし、さんまも平成27年度をピークに減少を続

けており、全魚種合計でも平成25年度以降減少傾向にあります。一方、平成17年度から導入された外国船(ほとんがロシアの活ウニ)の漁獲物陸揚使用量は順調に推移しており、令和4年度は初めて全体の漁獲物取扱高に対して輸入取扱種が56.2%と半数を超えました。

鈴木議員は、日口関係が困難な状況にある中で、今年度の輸入取扱の状況をお尋ねしましたが、今年度においても順調に推移しているとのことでした。

会計全体をみると、一般会計からの繰り入れも少なく順調に黒字になっていきますが、老朽化した水産上屋の対応、新たな土地の売却などに課題が残ります。

水道事業会計

加入者から徴収する水

道料金を主な収入源として水源地の管理や浄水場の運営、水道管の工事などをを行い、安心・安全な水を提供する会計です。

平成31年4月1日の料金改定(値上げ)以降、収支状況は改善され、令和4年度も黒字となっております。しかし、今後の人口減による水需要の減少、また、値上げに伴う市民負担軽減のための一般会計からの補助金が令和5年度までとされていることから、令和6年度以降は赤字になることが予想されます。鈴木議員は、さらなる市民負担増にならないよう、補助金については一般会計と協議することを求めました。また、人が生きていくうえで欠かせない水の料金に地域差が出ることは本来あってはならないと指摘。地域間の格差は国の責任で是正するべきだと主張しました。

下水道事業会計

加入者から徴収する下水道料金を主な収入源として、ポンプ場や終末処

理場の管理運営、下水道管等の工事を行います。

鈴木議員は、同会計の経営状況について質疑しました。令和4年度の下水道会計は赤字となっておりますが、支出のうち現金支出を伴わない減価償却費が高額であるため、単年度の現金収支は増加し、内部留保資金は同年度決算で約4億1千480万円となっております。

鈴木議員はまた、地域色を生かしたデザイン、マンホール蓋の設置と、マンホールカードの導入についての検討を提案しました。

病院事業会計

入院・外来患者からの医業収益が主な収入源となりますが、地域医療の中核となる公立病院として、採算の取れない診療科目を抱えており、どうしても一般会計からの繰り入れが必要となります。問題は、そこをいかに圧縮するか、です。

令和4年度は、コロナ病床設置等、コロナ対応に対する国・道の補助金

が多かったこともあり、黒字となりました。また、一般会計からの切り入れも当初予算より減額になりました。

日本共産党は、令和4年度病院会計の当初予算には反対しましたが、黒字決算になったこと、一般会計繰入金が増えたこと、そして、何よりもコロナ対応で病院の全スタッフが懸命に努力されたことを評価し、決算には賛成しました。

国民健康保険特別会計

令和4年度はコロナ禍にありましたが、保険税滞納者に対する差し押さえが行われていたことが明らかになりました。鈴木議員は滞納者に対する細やかな対応を求めました。また、基金が2億3千5百万あることから、被保険者の負担軽減のための活用を求めました。

後期高齢者医療特別会計

75歳という根拠のない年齢で高齢者を線引きして創設したこの制度そのものに反対です。